

せたがやアーツプレス

# SETAGAYA ARTS PRESS

世田谷文化センター

『キネマと恋人』

『チック』

『MANSAI◎解体新書』

音楽事業部

地歌・箏曲・京舞 富山清琴の世界

世田谷美術館

ある編集者のユートピア

小野二郎：ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校

世田谷文学館

萬画家・石ノ森章太郎展

生活工房

世田谷線にのって展

2019.4-7

Vol. 16

公益財団法人 せたがや文化財団



**CONTENTS**



ケラリーノ・サンドロヴィッチ



『動という名の静(死)サイボーグ009』  
 ©石森プロ



地歌・箏曲・京舞 富山清琴の世界



せたがやバンドバトル



セタビカフェ

- 02** Cover Story   カバーストーリー 『キネマと恋人』
- 03** Theatre       『キネマと恋人』 ケラリーノ・サンドロヴィッチ
- 05** Theatre       『チック』 小山ゆうな
- 06** Theatre       『MANSAI◎解体新書』 野村萬斎
- 2019年度世田谷パブリックシアターラインアップ
- 07** Art           あゝ編集者のユートピア  
 小野二郎：ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校
- 09** Literature   萬画家・石ノ森章太郎展  
 ボクは、ダ・ビンチになりたかった
- 11** Design       祝！世田谷線開業50周年  
 世田谷線にのって展
- 13** Music         シリーズ和・華・調 第2回  
 地歌・箏曲・京舞 富山清琴の世界
- せたがやジュニアオーケストラ通信 Vol.14
- 15** Community   世田谷美術館の出張授業とインターン実習
- 16** Pick-Up       第7回せたがやバンドバトル 決勝大会
- 17** Theatre Report 『CHIMERICA チャイメリカ』 谷岡健彦
- 18** Theatre Report 『熱帯樹』 川崎千恵子
- 19** Ticket        前売チケット発売情報
- 21** Take a Break 『ル・ジャルダン』『セタビカフェ』
- 22** Information   世田谷区芸術アワード“飛翔”／ご支援のお願い



『小野二郎著作集』 著・平野甲斐、品文社、1986年



世田谷線



世田谷美術館

**Setagaya Arts Navigation**  
 “今日、何やってる？”

せたがやアーツナビ 検索

<https://www.setagaya-bunka.jp/>



表紙 : 妻夫木聡 [撮影:西村裕介]

デザイン : 飯岡るみ

編集協力 : 有限会社 壘

\*掲載した情報は2019年3月現在の情報です。

やむを得ない事情などで開催予定、内容などが変更になることがあります。

\*本誌に掲載の記事・写真の無断掲載を禁じます。

編集・発行:公益財団法人せたがや文化財団 事務局

© Setagaya Arts Foundation. All rights reserved.

# 『キネマと恋人』

初演のオリジナル・キャスト、スタッフが全員再結集。  
 “最高! 最高がっさ!”の『キネマと恋人』が  
 3年ぶりに舞台に戻ってくる!

2016年に初演、連日満員の観客を「幸福が約束された作品」  
 に誘った『キネマと恋人』が、3年ぶりに再演される。

あの愛しい愛しい映画が恋人のハルコさんご鼻屑の、劇中映画「月之輪半次郎捕物帖」から飛び出す間坂寅蔵とそれを演じる高木高助……。ハルコを演じるヒロイン緒川たまきに、愛されキャラの二役を演じた妻夫木聡。現実と映画の世界を自在に行き来し、作者KERAが創造した「だり弁」(架空の島、梶島の方言)とサムライ言葉が入り混じってのナンセンスなやりとりも何ともステキ、時にのほほんと、時にはリズムカルに、そして時に情感が入り混じり、ファンタジーな世界を彩る。

「映画」のなかの妻夫木(つまり間坂寅蔵)は、映画の中だけの世界しか知らない純粹無垢な人間。そして俳優・高木高助は同じ純粹さのなかに俳優としてミュージカル・コメディに主演したいという欲をもつ。ストーリー上でも、時代劇から現実世界に飛び出して、そのギャップにあたふたするシーンも見どころだ。

スクリーンの寅蔵に惚れたハルコが「寅蔵さんなら最高が人ががっさ」と言うのに対し、現実の高助はこう切り返す。

「それは僕が最高が人に演じてやったからだよ。だけど最高だろうが完璧だろうが、いないんだから実際には。実在しないんだよこいつは」

そんな寅蔵&高助にも3年ぶりに会えるのだ。



左:緒川たまき 右:妻夫木聡(2016年初演の舞台) [撮影:御堂義乗]

勉強さえすれば  
 金語楼くらいにはね。の

高木高助  
 たかすけ



[撮影:西村裕介]

まさか、  
 まさかまさかの  
 間坂寅蔵  
 まさか

## ケラリーノ・サンドロヴィッチ 「幸福を約束された作品」をかく語る



【撮影：御堂義乗】

### 僕も3年ぶりの再会にわくわくしている

初演から3年、またあの昭和11年の、東京から遠く離れた梟島の人々に再び出会うことができる。何と幸せなんだろうと、正直思います。

先日、再演の宣材のためのスチール撮りがあったんです。再演だからでしょうけど、表情ひとつとってみても役者がみんな役になりきった状態で、役者じゃなくて、役のキャラクター達に再会したような気分になりました。またあの登場人物たちと一緒に日々を過ごせると思うと、作・演出の立場ながら、とてもわくわくしています。会えて嬉しいなという気持ちになるような島の人たちばかりですからね。非常に幸福感

に満ちあふれた世界ですし、ウディ・アレンの映画『カイロの紫のバラ』の翻案を上演すると決めたときから、これは広範囲のお客さんに受け入れられ、「幸福を約束された作品」になると確信していました。

この「幸せもの」の作品は、キャスト全員が初演の上演中から再演を切望していました。インフルエンザによる休演があり、振替の公演もなかったということもあったとは思いますが、ともかくもう一回やりたいということをあんなにも早い時期に口を揃えてみんなが言うなんて公演はなかったですね。再演してもらわないと困るみたいな気持ちでした。

### 魅力的な登場人物

ファンタジーって観る人をわくわくさせますよね。単純に面白い。ファンタジックな世界を、あんまりマンガにせず、あえてある程度リアリティに演じていく。映画が大好きで、いわば映画の世界に現実逃避しているヒロインのハルコさんと、時代劇映画の中から飛び出してくる間坂寅蔵、そして寅蔵を演じている俳優である高木高助。書いた人間が言うのもなんですが、三人三様に魅力的なんですよ。だから演じている妻夫木(聡)くんも緒川たまきさんも、彼ら彼女の

DATA

世田谷パブリックシアター

6月8日[土]～23日[日]

世田谷パブリックシアター+KERA・MAP#009『キネマと恋人』

【台本・演出】ケラリーノ・サンドロヴィッチ

【出】妻夫木聡 緒川たまき ともさかりえ ほか

福岡、兵庫、愛知、岩手、新潟にてツアー公演あり

詳細な公演日程、出演者、前売発売などはP19をご覧ください。

◆初演DVD 世田谷パブリックシアターオンラインショップで発売中!

台本・演出のケラリーノ・サンドロヴィッチ自ら監修した初演版DVD。初回限定 劇中曲CD付 本編約184分 価格6,480円(税込)

<http://shop.setagaya-pt.jp/shopdetail/000000000001/ct5/page1/order/>

ファンだと思う。悪役も出ますが、基本的には登場人物みんなが憎めない人たち。150本以上ある僕の戯曲のなかで、ここまで露悪的な要素を排除した芝居は例外的です。古きよきハリウッド映画みたいなテイストを根底にもっている芝居ですね。

### 架空の「KERA方言」と、転換と映像も楽しむ

「現実ん世界と違ってみみんな最高だり」「ちいとだけんが、アステアに似とるんよ」とか、僕が創作した架空の方言で島の人たちは話します。今までワンシーンだけとか、断片的にはまったく同じ「だり弁」を使った芝居を何回かやっていますが、本作では素朴な人々を描きたかったのが、皆が全編にわたってこの方言を話す。劇中の映画は、スクリーンからでてきたときのギャップがあったほうが良いと思い、時代劇にしました(僕のなかには時代劇の素養はまったくないのですが)。それもB級の娯楽作で、そこにちょっとした悲哀があったり、芸術監督の野村萬斎さんも映像出演して下さったり、全編ロケをさせてもらい、世田谷パブリックシアターのスタッフのみなさんにはお役目の範囲を完全に超えて、協力していただきました。

振付の小野寺(修二)さんと映像監修の上田(大樹)さんにはとても大切な役割を担ってもらっています。特に小野寺さんは共同演出といってもいいぐらい。スピーディでスマートな場面転換のステージングを全編にわたって振り付けてもらいました。初演時にはお客さんに充分楽しんでいただけたと思います。その転換と映像が見事にクロスするわけです。これまで僕の通常の公演でも映像はいろいろ駆使してきましたが、これほど大がかりなものはありませんでしたね。

### PROFILE

#### ◎ ケラリーノ・サンドロヴィッチ

劇作家・演出家・映画監督・音楽家。1985年に劇団健康を立ち上げ、解散後の93年にナイロン100℃を旗揚げ。壮大な群像劇からナンセンス・コメディまで、演劇界で唯一無二の活動を展開。2018年秋には紫綬褒章を受章。同年、再演した『百年の秘密』にて第26回読売演劇大賞最優秀作品賞、優秀演出家賞を受賞。

なお、2016年11～12月にシアタートラムで初演された『キネマと恋人』では、第4回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞、第51回紀伊國屋演劇賞個人賞、第68回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞を受賞している。



僕自身が機械音痴ということもありますが、デジタルではなく、フィルムの手ざわりというか、フィルムを拡大して投写するからスクリーンに映るんだみたいなアナログの感覚が好きなので、そのテイストを熟知している上田くんが見事に仕上げてくれた大作です。

### 舞台は、シアタートラムからパブリックシアターへ

再演なので、時間的に余裕をもってつくれるはず。劇場が変わったといってもムダなスケールアップはせずに、作品により深みをもたせることを目指したいと思ってます。劇中で語られるロッパやエノケンの映画や、サイレントのコメディ映画をみんなで稽古場で観たりできないかな、と。そうした時間をもつことで、きっとみんな内面をふくらませられる。とくに初演時と何も変えずとも、稽古次第で作品が豊かになるのを『百年の秘密』の再演で実感しましたので、この作品みたいなロマンチック・コメディは何度観ても面白いと思うし、初演を観られなかった方はもちろん、初演を観た方もぜひまた観て欲しいなと思います。



[撮影: 御堂義乗]

「めっちゃめっちゃいい夏で、最高の夏だった」  
7月、『チック』が進化して帰って来る!

2011年の初演以来、ドイツ内外でいまなお上演が繰り返されている『チック』。14歳の2人の少年が無断で借りた車で文字通り疾走、思春期特有の瑞々しい感性がほとばしる、ロードムービーさながらのひと夏の冒険が、17年8月のシアタートラムを駆け抜けた。この日本初演を翻訳・演出したのがドイツに生まれ、幼少期まで過ごした小山ゆうな。時空を超えた演劇ならではの自由な発想と仕掛け、変幻自在の舞台空間、そして遊び心を随所に取り入れた演出で、読売演劇大賞 優秀演出家賞、同優秀スタッフ賞(乗峯雅寛)、そして小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞するなど、高い評価を得たが、それ以上に観客の熱い支持が後押し、再演を望む声に答えて、2年後の本年7月、再びシアタートラムに帰って来る。

## トラムの観客も一緒に疾走し、共感する

「翻訳をしている時から引っかかっていた台詞があり、母親が“人に話しちゃいけないことなんて、何にもないのよ”そして“他人がどう思おうとそんなのクソくらえってことよ”と息子のマイクに言いますが、それがキーワードのひとつです。この芝居はマイノリティの話で、社会からこぼれちゃったマイクと、ロシアからの移民の転校生・チックがいろんな人に出会いますが、出会う人みんなはずれちゃった人たち。でもちゃんと大人として生きてるよというメッセージがあります。再演で、大きく何かを変えることはしませんが、ブラッシュアップで



左:篠山輝信 右:柄本時生(2017年初演の舞台)  
[撮影:細野晋司]

きることは何なのかというのを考えています」

再演に向けて、こう語る小山だが、初演では美術の乗峯はじめ、スタッフはもちろん、俳

## PROFILE

## ◎ こやまゆうな

ドイツ ハンブルグで生まれ、幼少期をドイツで過ごす。早稲田大学第一文学部演劇専修卒業。ドイツで演出を学び、劇団NLT演出部を経て、現在はアーティストユニット「雷ストレンジャーズ」を主宰。2018年に『チック』にて小田島雄志・翻訳戯曲賞、読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。最近の演出作に、『山歩き』『イザぼくの運命のひと(リーディング)』『父』『コモン・グラウンド』『LULU』などがあり、上演の度に評価を高める、いま最も注目すべき若手演出家の一人。



優みんなの創意工夫によるところが大きかったと振り返る。

「こうなったらいいなと、演出のイメージはありましたが、これは無理かなと思っていたこと、例えばライブカメラも使いたいと提案してみたら、スクリーンに映し出していただいたり、スタッフの方々が無理なことも実現してくださったし、私の想像を超えた面白いアイデアが俳優さんからいっぱいできてきました」

少年は14歳の設定。人間と人間がふれあって楽しいとかステキと思う時間は、そんなに短くはないという話もでてくるが、それが「いちばんビビッドに感じられたり、逆に疎外感とかも含めて、14歳というのは絶妙な年齢」(小山)。劇中では貧富の差、DV、家族問題、戦争の傷など、社会的な問題もいろいろでてくる。それらを正面きって訴えることはしないが、今回は特にチックが移民だということを、初演ではどこまで具体的なイメージができていたかもふまえ、そこがいちばんのポイントだと小山は意欲を示す。

柄本時生、篠山輝信、土井ケイト、大鷹明良ら初演キャストに、今回は那須佐代子が新たに加わる。新座組のなかでの新しい風を小山は期待する。

「若い人、中高生に観ていただけたらうれしいですね。それと、初演時のアンケートなどで、普通に生活しているけど、自分は疎外されていると感じている大人の方も多く、すごく共感したとか、頑張ろうと思ったみたいなの、割と真っ直ぐな感想をもたれた方が多かったので、何か、ちょっと苦しいなとか思ってる人が観に来てくださり、爽やかな気持ちで帰っていただけたらいいなあと思います」(小山)

“愛、愛! カルベ・ディエム”(その瞬間を楽しめ) 7月はシアタートラムへ。

## 『MANSAI●解体新書』

### 2019年度世田谷パブリックシアターラインアップ

『MANSAI●解体新書 その式拾九「発酵」～アカルチュレーションジャパンカルチャーという文化変容～』

『MANSAI●解体新書 その参拾 特別版『5W1H』』

野村萬齋がホストとなり、現代芸術の世界を構成している様々な分野、要素をパーツに分け、解体しながらそれぞれの成り立ちと根拠を改めて問い直そうという、人気のシリーズ『MANSAI●解体新書』。

その式拾九のテーマは《発酵》。「日本の文化的アイデンティティーは《発酵文化》である」という持論を、萬齋がゲストとともに説き明かす。大陸から受容した「文化」が、日本の地に吹き溜まり、発酵し、そして受容を遂げる。まさに文化が多層的に重層的に現れ、その多様性が日本の特徴といえる……。ゲストのダンサーのTAKAHIROさん、雅楽師の山田文彦さんとともに検証する。

さらに7月、シリーズ30回目を記念し、「特別版」として「5W1H」をテーマに新作パフォーマンス&トークをお届けする。“六何の原則”の5W1Hから人間の身体行動・行動様式は数値化できるという視点から、ビジュアルデザイン・テクニカ

ルディレクションに「真鍋大度+石橋素+ライゾマティクスリサーチ」が加わり、人間のプリミティブなパフォーマンスを体感することで、“生きている人間”を実感する。



野村萬齋 ©江森康之

**DATA**

世田谷パブリックシアター 5月15日[水]19時

**MANSAI●解体新書 その式拾九**

出 野村萬齋 TAKAHIRO(上野隆博) 山田文彦

---

世田谷パブリックシアター 7月9日[火]～14日[日]

**MANSAI●解体新書 その参拾 特別版『5W1H』**

企画・構成・演出・出演 野村萬齋

ビジュアルデザイン・テクニカルディレクション  
真鍋大度+石橋素+ライゾマティクスリサーチ  
\*前売情報はP19をご覧ください。

### 2019年度世田谷パブリックシアターラインアップ

\*4～7月はP19の前売情報をご覧ください。

野村萬齋芸術監督から2019年度の世田谷パブリックシアター主催公演のラインアップが発表された。

特に注目されるのは、前川知大、森新太郎、倉持裕による、新作公演。いずれも世田谷パブリックシアターで数々の舞台を手がけた気鋭の劇作家、演出家だが、新たな構想で意欲作に取り組む。

「前川さんが2011年に『奇ッ怪 其ノ式』で登場した時には、ベテランの美術家・堀尾幸男さんとタッグを組み成功しました。また倉持さんは2017年の『お勢登場』で新境地をひらかれました。そして、森さんはまだ記憶に新しい今年の『The Silver Tassie 銀杯』はじめ、世田谷パブリックシアターでハードルの高い数々の翻訳劇を演出されています。劇場で、またいい出会いができ、いい意味でどんな事件が起きるか、お客様には是非その瞬間に立ち会っていただきたいと思います」(萬齋)

- 8月 せたがやこどもプロジェクト2019  
子どもとおとなのための◎読み聞かせ『お話の森』  
『日野皓正 presents “Jazz for Kids”』  
『コンドルズ公演』
- 10月 世田谷アートタウン2019 『三茶de大道芸』  
世田谷アートタウン2019関連企画  
カンパニーループリエ/ラファエル・ボワテル  
『When Angels Fall/地上の天使たち』  
『前川知大 作・演出 新作公演』  
『戯曲リーディング』
- 12月 シアタートラム ネット・ジェネレーションvol.12  
選出団体「悪い芝居」
- 1月 『森新太郎演出作品』
- 2月 『倉持裕 作・演出 新作公演』
- 3月 ピーピング・トム『マザー』  
『地域の物語2020』



前川知大 ©鬼澤礼門



森新太郎



倉持裕



◀モリスによるデザインの壁紙(小野家蔵)

▲『ジェフリー・チョーサー作品集』扉頁、ケルムスコット・プレス 1896年 (凸版印刷株式会社 印刷博物館蔵)

# ある編集者のユートピア

題字：平野甲賀

## 60年代から80年代にかけて時代を作った編集者、小野二郎

DATA

世田谷美術館 4月27日[土]～6月23日[日]

### ある編集者のユートピア

小野二郎:ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校

観覧料:一般1,000(800)円/65歳以上、高校・大学生800(600)円/小・中学生500(300)円 リピーター割引あり

※( )内は前売り、20名以上の団体割引料金・せたがやアーツカード割引料金

※障害者手帳をお持ちの方は500(300)円、介助者1名無料

#### 関連企画

会期中には、小野二郎とゆかりの深い関係者をお招きして講演会を開催します。詳細は世田谷美術館ホームページをご覧ください。

#### 美術館 Schedule

##### 《世田谷美術館》

■ミュージアム コレクション 第1期  
〈それぞれのふたり〉池田良二と海老塚耕一 ▶ 4月20日[土]～7月21日[日]

##### 《向井潤吉アトリエ館》

■第1期 草屋根と絵筆 向井潤吉のエッセイとともに ▶ 4月2日[火]～10月6日[日]

##### 《清川泰次記念ギャラリー》

■第1期 清川泰次 具象から抽象へのあゆみ ▶ 4月2日[火]～10月6日[日]

##### 《宮本三郎記念美術館》

■第1期 宮本三郎 花々と、女たちと  
▶ 4月2日[火]～10月6日[日]

\*このほかにも様々なプログラムを行っています。ホームページ・チラシなどをご覧ください。

世田谷美術館では、1960、70年代に活躍した編集者、小野二郎を取り上げて、企画展「ある編集者のユートピア 小野二郎:ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校」を開催します。

新たな本を世に送り出し、時代をつくり、仕事なかばで足早にこの世を去った編集者が、なにをめざし、理想としていたのか。書籍を中心とする資料約500点で、光をあてます。

### 新しい生き方、文化を、本で世に問う

1960年代から80年代にかけて、大型書店には「晶文社」の棚がありました。各ジャンルに振り分けられず、本屋の一角を一出版社がまとめて占めていたのはめずらしいことでしたが、理にかなっていたのです。

それは、晶文社では従来のジャンル分けでは収まりきら



開館時間 10時～18時 \* 展覧会入場は17時30分まで

休館日 毎週月曜日(ただし、祝・休日の場合は開館し、翌日休館)

\* 4月23日[火]から5月6日[月・振替休日]までは開館、5月7日[火]は休館します。

▼『小野二郎著作集』内容見本  
(世田谷美術館蔵)

▲『小野二郎著作集』装幀：平野甲賀、晶文社、1986年(世田谷美術館蔵) 撮影：上野則宏



▲小野二郎『紅茶を受け皿で』晶文社、1981年(世田谷美術館蔵)

ない本を作っていたこと、ブックデザインに統一感があって、並べると美しさがきわだったこと。そして、読者の信頼が厚く、晶文社の本を目当てにするファンがいたからです。

ジャズ、映画、演劇、写真、翻訳、古典芸能、地方、市民運動……、植草甚一、片岡義男、小林信彦、ブラッドベリ、サロイヤン……、「就職しないで生きるには」、「文学のおくりもの」などのシリーズ……。それまでの書籍の枠を超え、新しい生き方や文化を提示し、特に知的好奇心の強い若い層に支持されました。

若く小さな出版社に、なぜそうしたことができたのか。世田谷美術館・矢野進学芸員は、編集者・小野二郎に注目し、本展の準備を進めました。

1960年、小野二郎は30歳で、友人・中村勝哉とともに晶文社を創立し、一貫して企画・編集を担いました。少し年下の、編集者の津野海太郎、デザイナーの平野甲賀、美術系編集者で詩人の長田弘、小野の義弟で学生だった高平哲郎らに声をかけ、切り回していきます。しかし、さらなる飛躍を期待されるなか、82年に52歳で急逝しました。

## 英国のウィリアム・モリスに魅了されて

強い存在感があり、破天荒。小野は人と人をつなぎ、場を活性化させ、アイデアにあふれ、ネーミングセンス抜群という魅力的な人物でした。矢野学芸員は、「読者にはその存在は見えませんでした。小野二郎の眼力が晶文社の方向を決めていたのでしょう」と語ります。

小野は多才の人で、英文学者の顔も持ち、特にウィリアム・モリスに深く魅了され、研究に力を入れていました。現在は、壁紙やテキスタイルのデザイナーとして有名なモリスですが、工芸家だけでなく、詩人、社会主義運動家としても傑出し、それらの活動はバラバラではなく、モリスの中では

一つに結びつくものでした。

産業革命によって近代化が進むなかで、モリスが、作り手にとっても使い手にとってもよるこびとなる民衆芸術をめざしていたのと同じように、小野も芸術活動のなかで集団で創造する可能性を試したいと考えていました。

## ゆかりのものからにじみ出るユートピア

本展では、装丁のほとんどを平野甲賀が行っていた、当時の晶文社の書籍約200冊が並びます。小野家に飾られていたモリスの壁紙や、モリスの私家版印刷工房ケルムスコット・プレスの本20数冊、その中には、モリスの手によって装幀、活字デザインがなされ、世界でもっとも美しい本のひとつと言われている『ジェフリー・チョーサー作品集』も含まれます。このほかに、講師としてかわり、石山修武ら建築家に強い影響を与えた飛騨高山でセルフビルドを学ぶ私塾「高山建築学校」の資料も展示します。

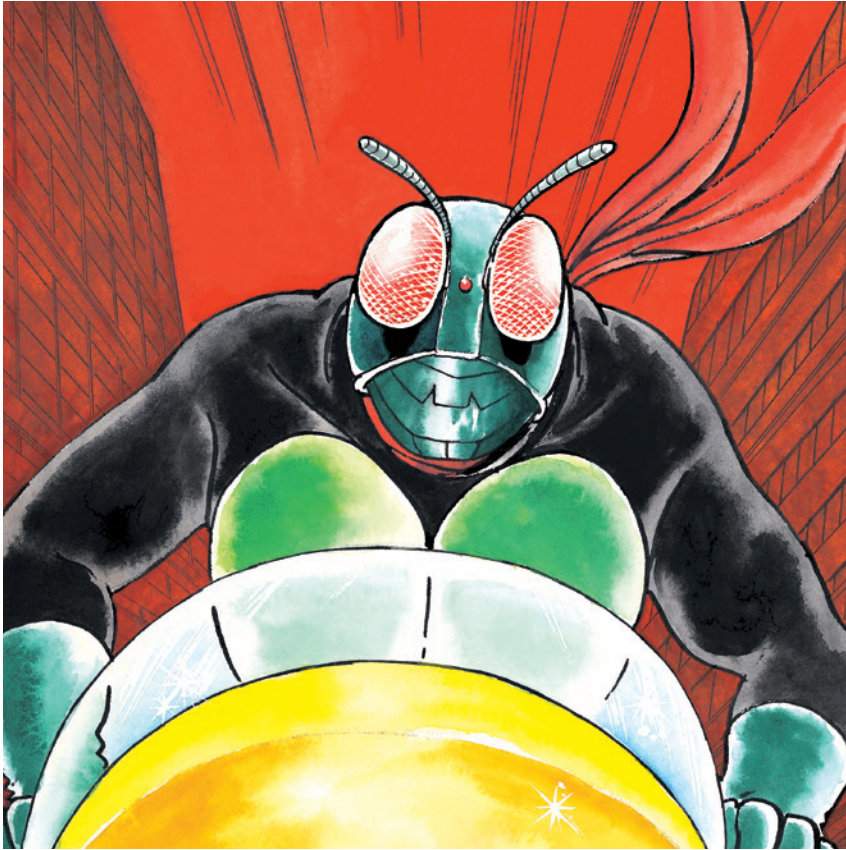
「人間的魅力は形に残りませんが、展示品のさまざまなところに、小野二郎その人と、彼が考えていたユートピアがにじんでくるでしょう。あの時代に小野二郎という人がいて、どんな出版活動や運動を考え、実践しようとしていたかを伝えたいと思います」(矢野学芸員)。

[取材・文：北島章子]

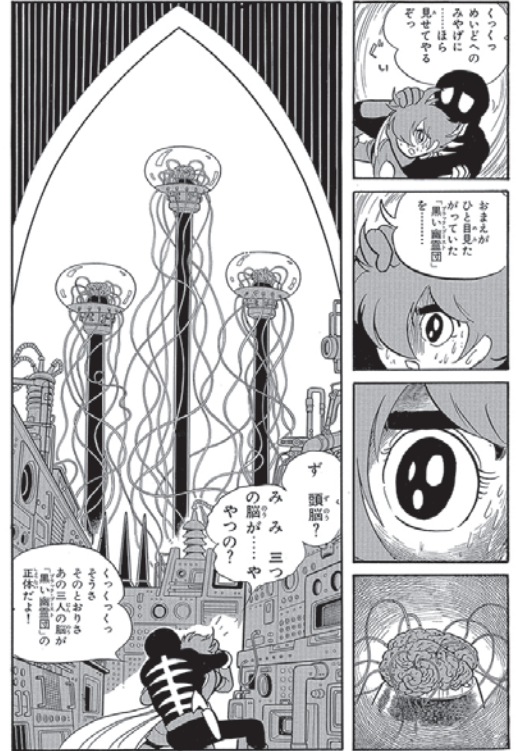


▲スタッフオードジャの陶器人形(小野家蔵) 撮影：上野則宏

ボクは、ダ・ビンチになりたかった



『仮面ライダー』©石森プロ



『サイボーグ009 地下帝国“ヨミ”編』©石森プロ

DATA

世田谷文学館 4月20日[土]～6月30日[日]

萬画家・石ノ森章太郎展 ボクは、ダ・ビンチになりたかった

観覧料：一般800(640)円 / 65歳以上、高校・大学生600(480)円 / 中学生以下無料 / 障害者手帳をお持ちの方400(320)円

※( )内は20名以上の団体料金割引料金・「せたがやアーツカード」割引料金

\*4月20日[土]は開館記念観覧料無料 \*4月26日[金]は65歳以上無料

\*6月1日[土]は地域催事に伴う観覧料無料

関連イベント

1. 009 記念スタンプ

展覧会会期中、サイボーグ009のメンバーたちが皆様をお出迎えます。クイズを解きながら、文学館を探検しよう!

[会場]文学館館内 [参加費]無料 [申込]当日、直接会場にお越しください

2. セタプンマーケット + 烏山下町まつり

6月1日[土]10時～16時

思春期を宮城県で過ごした章太郎にちなみ、石巻のグルメをお届けします。セレクト書店、ワークショップなどを開催するミニマーケットをお楽しみください。

その他、詳細は世田谷文学館ホームページをご覧ください。

文学館 Schedule

- 同時開催  
前期コレクション展 仁木悦子の肖像 ▶ 4月20日[土]～9月23日[月・祝]
- 次回企画展  
原田治 展 「かわいい」の発見 ▶ 7月13日[土]～9月23日[月・祝]

マンガ家として『サイボーグ009』『仮面ライダー』『佐武と市捕物控』など数々のヒット作で知られる石ノ森章太郎(1938-1998)は、エンターテインメント作品を量産する一方で実験的作品『章太郎のファンタジーワールド ジュン』や『マンガ日本経済入門』など画期的なテーマにもチャレンジし続け、万物を表現できるメディアとしての「萬画」を提唱しました。また、後進育成のための、マンガ入門書やエッセイ刊行の他、晩年は郷里貢献活動として、「マンガを活かした街づくり」に尽力するなど、教育者や作家、社会企業家(社会変革の担い手)としての側面も併せ持ちます。

石ノ森の「萬画宣言」は当初、「カルチャーに依存した、サブカルチャーとしての漫画」からの脱却でした。漫画は、コマ絵と呼ばれる1枚のスケッチから、手塚治虫らの活動を経て、絵画や映画と同じ芸術の一分野となりました。そして石ノ森は、手塚の歩んだ道を引き継ぎ、マンガをあらゆる事象「森羅萬象」を表現できる

**開館時間** 10時～18時 \* 展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17時30分まで

**休館日** 毎週月曜日(月曜日が祝・休日の場合は開館し、翌日休館)

※4月23日[火]から5月6日[月・振替休日]までは開館、5月7日[火]は休館します。

マルチメディアとしての〈萬画〉へと進化させたのです。彼の遺業の総体を振り返る時、〈萬画〉は教育や文化・社会現象など、人の営み全てに関わりながら拡がりを見せる萬画家・石ノ森章太郎の人生観そのものです。現在、未完であった代表作『サイボーグ009』は、彼の意志を継ぐ者により完結され、また東日本大震災で被災した郷里では、石ノ森作品に励まされた人々が震災復興に奮闘しているのです。〈萬画〉は、石ノ森没後もその可能性を拡げながら、〈希望の光〉として私たちの心を照らし続けています。本展は「世界一多作なマンガ家」の多様性、先見性を顕彰するものです。

## 第1章 ヒーローズコレクション

### 一 特撮作品原作者として

マンガ家として数々のヒット作で知られる石ノ森は、原作者として多数の実写作品に関わり、マンガの可能性を拡げたパイオニアです。登場する主人公は、ヒーローでありながら、人間誰しもが抱える苦悩を併せ持つ存在として描かれています。

## 第2章 ボクの萬画

### 一 萬画家・詩人芸術家として

吹き出しによるセリフがほとんどなく、多種多様なコマ割り、変化に富んだ描写力で読者をマンガ独自の世界へと導く実験作『章太郎のファンタジーワールド ジュン』。ジュンで培った革新的な表現方法を取り入れ、〈戦争と平和〉〈善と悪〉〈神と人間〉といった壮大なテーマを、作者のライフワークとして描き続けたSFファンタジー『サイボーグ009』。マンガの可能性を拡げたこれらの作品には、石ノ森が提唱する《萬画》の神髄が随所に見られます。

## 第3章 石ノ森章太郎による石森章太郎

### 一 萬画家・社会企業家として

美術や文学、演劇や映画、音楽そしてスポーツ等々。あらゆる分野に興味を抱いた少年・小野寺章太郎は、郷里の地名である宮城県石森(「いしもり」ではなく「いしのもり」)に因んだペンネームでマンガ家を志しました。デビュー30周年を機に、初心にもどるべく「石ノ森」に改名し、1998年に

## PROFILE

### ◎ 石ノ森章太郎 いしのもりしょうたろう

1938年 宮城県に生まれる。本名・小野寺章太郎。少年時代は読書好きの姉の影響もあり、文化・芸術全般に興味を抱く。宮城県立佐沼高校在学中、「漫画少年」に『二級天使』の連載でデビュー。卒業と同時に上京し漫画家生活に入る。『ミュータント・サブ』『サイボーグ009』で講談社児童まんが賞、『章太郎のファンタジーワールド ジュン』『佐武と市捕物控』『HOTEL』等で小学館漫画賞、『マンガ日本経済入門』で日本漫画家協会賞・大賞を受賞。1986年デビュー30周年を転機に“石ノ森”と改名。

1998年60歳の生涯を閉じる。2008年にギネス・ワールド・レコーズから「一人の著者によって出版された最多コミックの記録」として世界記録の認定を受ける。



永眠するまで、精力的に作品の発表を続けるとともに、マンガ文化向上のために尽力しました。マンガ家としての優れた才能はもとより、後進育成や郷里への貢献など、その営みが社会に及ぼした影響は図り知れません。ここでは、小野寺少年がマンガ家に成長するまでと、彼が果たした晩年の活動をご紹介します、石ノ森章太郎の大志を現代に繋ぎます。



『章太郎のファンタジーワールド ジュン』©石森プロ

# 祝!世田谷線開業50周年 世田谷線にのって展



1999年まで運行していた緑色の84号。車内は木製の床でした



大勝庵 玉電と郷土の歴史館、館長の大塚さん。  
歴史館に展示されている玉電70形71号の運転台



本線を走る玉電。この頃はまだ首都高建設前で、三軒茶屋の空が明るいのが印象的

生活工房がある三軒茶屋と、下高井戸を結んでいる東急世田谷線。地域の人々に愛されているこの路線は、今年開業50年を迎えます。生活工房ギャラリーではこれを祝い、地域と電車の50年のつながりを振り返りながら、沿線を旅するように巡る展覧会を開催します。

展示に協力いただく大塚勝利さんにお聞きした、世田谷線にまつわる貴重なお話を交えつつ、その歴史をあらためてご紹介します。

## 玉電から続く世田谷線の歴史

世田谷線の歴史は、玉川電気鉄道(通称「玉電」)のことたまでんを抜きには語れません。玉電は1903(明治36)年に設立され、渋谷駅を起点に6路線の電車を運行していた電車で、そのうち基幹路線である本線(渋谷～二子玉川)と、砧線(二子玉川～砧本村)、下高井戸線(三軒茶屋～下高井戸)の3路線が世田谷区を走っていました。

本線は、二子玉川付近から、当時開発が進む都心へ、砂利を輸送することを主目的に敷かれ、そのために「砂利電」とも呼ばれていました。その後、沿線が宅地化されたことで旅客輸送が増大し、1924(大正13)年に砧線が、1925(大正14)年には、下高井戸線が運行を開始しました。

DATA

生活工房ギャラリー 4月27日[土]～5月26日[日]9時～20時

祝!世田谷線開業50周年「世田谷線にのって展」

会期中無休/入場無料

生活デザイン Schedule

■ プライベートコレクション展 ▶ 6月15日[土]～7月15日[月・祝]  
このほかにも様々なプログラムを行っています。ホームページ、チラシなどをご覧ください。

大勝庵 玉電と郷土の歴史館

世田谷区玉川3-38-6 ☎ 080-1227-6158

開館時間:10時～15時 定休日:月・水・金 入館料:無料

時は流れて昭和。1964(昭和39)年の東京オリンピックを契機に、都内の交通体系の見直しが行われ、1969(昭和44)年に砧線は廃止、本線も廃止されましたが、後に地下化して現在の東急・田園都市線へと変化していきました。

## 世田谷線前夜、はじまりの日

1969(昭和44)年5月10日、玉電運行最後の日には、カラフルな紙花と「さようなら玉電」と書かれた看板で飾られた花電車が走りました。三軒茶屋駅付近にも多くの人が見物に訪れ、皆が玉電との別れを惜しみました。

当時、三軒茶屋駅は、国道246号と世田谷通りの交わる交差点付近にあり、玉電が運行を終えた後、駅では渋谷側を閉鎖するため、線路に砂利が積み上げられました。

そして一夜にして、下高井戸線は東急・世田谷線へと転身を果たし、5月11日の開業日を迎えたのです。



玉電を見送る人々。花電車と普通電車がちょうど交差した瞬間



昔の三軒茶屋駅。渋谷方面の線路に積まれた砂利

## 郷土の風景を見つめ続けて

二子玉川にある「大勝庵 玉電と郷土の歴史館」の館長である大塚勝利さんは、生まれも育ちも世田谷の御年76歳。三軒茶屋の蕎麦屋で修業した後、1970(昭和45)年、二子玉川に蕎麦屋「大勝庵」を独立開業しました。そして2011年の店仕舞後、同年同地に「大勝庵 玉電と郷土の歴史館」を開館しました。館内には、玉電の70形運転台をはじめ、玉電や世田谷線に関するたくさんの資料や、二子玉川の郷土資料を展示し、一般公開しています。

若き日の大塚さんが勤めていたのは、三軒茶屋の玉川通り(国道246号)に面していた蕎麦屋さん。店は繁盛して、町のあちこちへ出前を届けたそうです。今もある仲見世商店街や栄通り商店街は人で賑わい、映画館は三軒茶屋だけで6館も営業していたそうです。

東京オリンピックに向けた道路の拡張、それによる蕎麦屋の移転、高速道路の建設、玉電の廃止と世田谷線の開業……大塚さんは、三軒茶屋のまちの変化をみつめ、カメラで記録を続けながら、電車と共に青春時代を過ごしました。

## 世田谷線にのって

「世田谷線にのって展」は、大塚さんが記録・収集した資料をはじめ、地域の鉄道ファンの協力のもと、世田谷線の50年の歴史を、貴重な実物資料を交えて展示します。

また、沿線の名所や各駅のまちの魅力を紹介しながら、世田谷に住む人も、はじめて訪れる人も楽しめる“世田谷線の旅”を提案します。

時速40km、片道約18分のショートトリップ。世田谷線にのって、ぜひ三軒茶屋に遊びに来てください。

[文中写真：大塚勝利][文：天野典子(生活工房)]



世田谷線とキャロットタワー[写真：三瓶嶺良]

地歌・箏曲・京舞 富山清琴の世界



「雅楽」でスタートした《シリーズ和・華・調》の2回目は、人間国宝の富山清琴さんをお招きして、「地歌・箏曲・京舞 富山清琴の世界」をお届けします。

地歌って何ですか？

「三味線音楽のご先祖様ですよ。いろいろ説はありますが、16世紀半ばに大阪の堺に入ってきたものを最初に手にしたのが琵琶法師で、彼らの音楽をそのまま受け継いでいるのが地歌だと考えております」と、富山さんは明快にお答えになります。

琵琶法師は当道座とうどうざという男性盲人の互助組織で平家物語の弾き語りを伝承する人々でした。彼らは三弦さんげんをいち早く取り入れ、改良を重ねて自分達の音楽を作ってゆきます。中国の三弦サンシエンと沖縄の三線サンシンは義爪ぎそうで弾きますが、琵琶法師は使い慣れた大きなバチで弾き、蛇の皮を猫の皮にかえました。

三弦(三線)は三味線と名を変え、琵琶法師から広く庶民に、大坂から全国に浸透していきます。人形劇や芝居の伴奏にも使われるようになり、大坂の義太夫節、江戸の長唄といった音楽が生まれていきました。時代が下るにつれ、ジャンルは多岐におよび、明治に入って小唄、戦後には津軽三味線が一世を風靡したことは皆さんご存じのとおりです。

地歌は江戸時代の250年間は当道座で、明治になってそれが廃止されてからも家庭音楽、お座敷音楽として受け継がれ、発展してきました。まさに三味線音楽の先祖らしく、地歌の世界では三味線のことを三弦さんげん(三絃)と言い、この言葉は他のジャンルでは使われません。

ちなみに、地歌の「地」とは江戸歌に対する言葉で、それ

成城ホール 6月1日[土] 15時  
 シリーズ和・華・調 第2回 地歌・箏曲・京舞 富山清琴の世界  
 [出] 富山清琴 富山清仁 井上安寿子(舞) 小島美子(お話)  
 [曲] 八千代獅子 寛潤一休 三吉 春鶯囀 八島  
 [¥] 一般 3,500円 友 3,000円 ※未就学児入場不可  
 詳しくはp20をご覧ください。

やたがやジュニアオーケストラ(SJO) 通信



去る3月21日、第9回定期演奏会が終了しました。昨年に引き続き田中祐子先生を指揮者に迎え、ロマンティックで華麗な世界に挑戦。人数もぐっと増え、仲間もぐっと良くなったこの1年間の集大成。美しい和音の残像とともに幕が閉じられました。

この演奏会の成功には、昨年度で卒団をしたメンバー(SJOの設立年から所属していたメンバーも!)の存在があります。このオーケストラをより良い

ものにしてと奮闘し、スタッフの右腕になってくれたメンバーたち。彼らの努力を決して無駄にせず、10周年を迎えるSJOのさらなる発展につなげていきたいと思えます。

今年度のSJOは国際交流の一環で台湾の高雄市に出向き、高雄市のジュニアオーケストラと共演をします。10年という節目の年、精一杯活動してまいります。どうぞみなさま、温かくお見守りください。



第9回定期演奏会終演後 ©鈴木義明

と区別するために地元の歌、地歌と呼ばれるようになったようです。江戸では上方唄と呼ばれ、上方舞(京舞)の伴奏=舞地としてよく使われるので地歌といった、とも言われています。

## 地歌の特徴は？

「時代時代で変化していったことですね。身近なことで言えば、父(初代清琴)の師匠だった富崎春昇先生は大阪から東京に出てこられました。先生はそこの土地柄にあったことを、時代にあったことをしなければダメだとおっしゃり、それに関して躊躇がなく、先進性がありましたね。伝統の世界とは言え、西洋クラシックの世界と同じですよ」

富山さんは富筋と呼ばれる古い芸を受け継ぐ、現所在地歌界で唯一の人間国宝です。初代清琴も富崎春昇も盲目でありながら活躍した人間国宝です。富山さんは地歌の特徴を「変化」と語りました。三味線は多岐のジャンルを生みましたが、その大元の地歌自体も450年の歴史の中で種類の違う音楽を作り続けてきたのです。このコンサートではその種類のいろいろを聴いていただくことに主眼が置かれています。

## 今回のプログラム

地歌の種類としては、小編歌謡を組み合わせた三味線音楽の原点ともいえるべき「三味線組歌」、ひと続きのまとまった歌詞をもつ「長歌」、叙情的な小編歌曲の「端歌」、謡曲から歌詞をとった「謡い物」、浄瑠璃から歌詞をとった「浄瑠璃物」、滑稽な内容で余興として作られた「作物」、器楽として間奏部分を充実させた「手事物」等々です。

今回はその中から手事物の代表曲《八千代獅子》、作物から一休禪師と山伏の法力競べを語る歌う《寛濶一休》、浄瑠璃物から近松の「重の井子別れ」の最後の部分を使った繁太夫節《三吉》、初代清琴が谷崎潤一郎の「春琴抄」に登場する曲を実際に作品化した箏曲《春鶯囀》、そして最後に京舞とともに能の「八鳥」の後半を使った謡い物《八鳥》を、清琴さんとその子息である清仁さんが演奏します。

作物は富筋にしか伝わらないものが多くお家芸で、地歌には珍しくわかりやすい言葉で滑稽です。また、地歌は

## PROFILE

### ◎ 富山清琴 とみやませいきん

重要無形文化財保持者(人間国宝)。地歌・生田流箏曲清音会 二代家元。昭和30年、初代富山清琴に師事。31年初舞台、48年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。国際交流基金派遣使節として世界各国で演奏。平成12年、富山清琴を襲名、家元を継承。



京阪では舞の伴奏音楽としても使われ、その日本情緒たっぷりの世界を、京舞を伝える井上流の井上安寿子さんと披露します。関東ではあまり見られない芸で、今回の見どころです。

地歌は江戸時代に箏を主体とした音楽=箏曲と結びつきました。ですから地歌箏曲とセットで呼ばれることが多く、三絃を弾き歌いする人は箏も弾けます。今回は初代清琴が1958年に発表した《春鶯囀》を箏の高低二部合奏で演奏します。春の雪がとけるように、春琴が悟りを開いて胸をはらす境地を歌います。

地歌のしつとりと、またはんまりとした世界を是非この機会に！

[取材・文：田中隆文(邦楽ジャーナル編集長)]

[撮影：松谷靖之]



### [地歌の三味線]

三味線はジャンルによって棹や胴の大きさが違い、駒やパチの材質や形状も異なります。地歌三味線は普通、中棹を使いますが、京都に伝わる京三味線(柳川三味線)だけは古の形を残し細棹よりもっと細いものを使います。棹の下(棹と胴の付け根)に特徴があり、ハイポジションを多用するために指面はギリギリまで延ばしています。

皮は表が猫、裏が犬が普通です。ちなみに細棹を使う長唄は両面猫、太棹を使う津軽三味線は両面犬です。皮は薄くなるほど音の抜けが良く、それぞれの音楽にあった音色を求めた結果が様々な三味線を生みました。

地歌のパチは他のジャンルのそれと比べてももっとも幅が広く、先が薄く、材質は象牙が先端がべつ甲のものを使います。重さとしなり加減が重要です。

糸を掛ける駒は水牛の角やべつ甲、象牙を使いますが、特徴的なのは音を沈めるために駒の底に金、銀、鉛のおもりを埋め込むことです。流派によってはおもりがなく幅の広いものを使うところもあります。

2018年秋。とある区立小学校の4年生の図工の授業を覗くと、すまし顔をしつつも張りきった子どもたちを前に、微笑みと堅い面持ちを同居させ、教壇に立つ若者の姿が。そう、世田谷美術館の「出張授業」です！

当館では長年、区立全小学校の4年生を「美術鑑賞教室」に迎え、館内を巡る美術館体験を実施する一方で、希望校には、鑑賞予定の所蔵品を中心に紹介する「出張授業」を、事前(時に事後)に行います。この授業を行うのは、東京学芸大学の主に3年次に在籍する当館インターン実習生たちです(毎年約10名)。彼らは美術館で毎週行う勉強会で、担当学芸員らと共に授業案の検討と改善を重ねています。

本稿にご紹介する出張授業では、アルミニウム鑄造のレリーフ作品・向井良吉作《花と女性》(1969年)をテーマに、まず、「レリーフ」という造形表現の解説を交えながら作品図版を鑑賞しました。次に、アルミホイルを手に文房具等の日用品(自分たちの手や顔も!)の型どりをして小さなレリーフを各自工作した後に、全員の作品を黒板に掲げて鑑賞タイムを堪能!

「美術鑑賞教室」の当日には、授業担当の学生らと再会し笑顔を交わす児童もいました。館内を巡るなか、美術館の地下にある創作の広場に設置された《花と女性》を鑑賞しに来た子どもたち。広場の壁全



美術館創作室にて、インターン実習の勉強会  
鑑賞リーダー(美術館ボランティア)が参加することも

## 届け、美術とふれあう楽しさ! 世田谷美術館の出張授業とインターン実習

面をほぼ覆う銀色に煌めく壮麗なレリーフの前で佇んだのち、その作品全体に浮き出ている色々なモチーフや、装飾的な細部一つひとつを目で追い、発見します。少し離れて、作品全体もじっくり鑑賞。

インターン実習生と学校との連携により、肩ひじをはらずに美術と出会う楽しい時間を、今後も子どもたちに届けていきたいと思えます。

[文: 矢野ゆかり(世田谷美術館学芸部普及担当学芸員)]



出張授業でのレリーフ制作:手を型どる



出張授業での鑑賞タイム:みんなのレリーフ



美術鑑賞教室の当日  
向井良吉作《花と女性》(1969年)の前で



# 第7回せたがやバンドバトル 決勝大会

2019年2月17日[日]  
世田谷区民会館

審査員：湯川れい子 井上鑑 鳴瀬喜博  
ゲスト：サンブラザ中野くん

晴れやかな笑顔、悔しさをにじませた顔……。グランプリ発表の会場に集まるさまざまな思いのバンドマンたち。仕事の合間に練習を重ねた成果を、この決勝大会にぶつけて熱くならないわけがない。とはいえ、各バンドの演奏レベルは高く、厳しくも温かい審査員の講評を、真剣に聞きながら聞く出場者たちは、充実感にあふれ、少年のようでもありました。

## ■ 熾烈なライブハウス予選

昨年夏より始まったCDによる音源審査、そして下北沢、三軒茶屋のライブハウスで行われたライブ予選。これが本当におもしろい。ハードロック、ジャズ、弾き語り、歌のないインストゥルメンタル等、ジャンルもさまざま。家族でほっこり、尖ったオヤジ、梓にはまらないバンドの数々が、ライトを浴びながら白熱したステージを披露する。スタッフによる審査も熱が入るのは言うまでもなく、出場者同士が盛り上げつつも火花を散らす姿が、これぞバンドバトル!

## ■ バンドバトルの目的

しかしながら、この「せたがやバンドバトル」の真の目的は、優れたバンドを見出すことではありません。そもそもせたがや(音楽事業部)主催の公演にやや縁遠い、



KEMUSHI

働き盛りの世代に、地域のイベントに参加してもらおうと立ち上げた企画。

毎回、応募動機の中には「応募のために職場の仲間とバンドを組んだ」「20年ぶりに昔の仲間が集まり、バンドを再結成した」「バンド活動を通して、地元の人と交流したい」というものが数多くあります。バンド活動、すなわち音楽が、人と人をつなぐものが目的なのです。予選で戦ったバンドとの交流ができ、その後一緒にライブをしたバンドもあるそう。こういった出場者同士の交流の他に、区内のライブハウスや商店街、協賛各社の応援や協力がイベントを支えています。

これからもせたがやバンドバトルを通して、地域の交流を深め、人々の新たなつながりを作っていきたいという想いを、少しずつ、そして着実に広めていきたいと思っています。

[文：黒田たま紀(公演制作担当)]

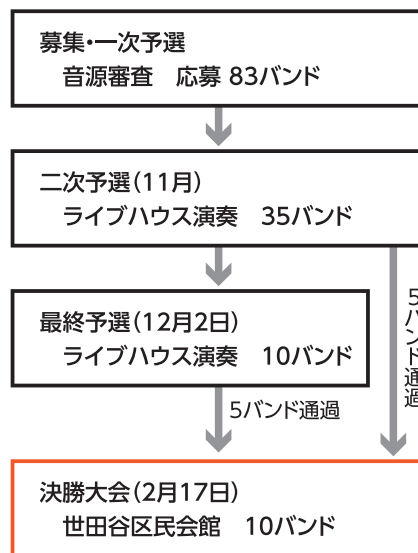
[撮影：中西多恵子]

人生、ここまで来たのって  
きっとバンドのおかげじゃない?

## 参加資格

- メンバーに世田谷区内在住・在学・在勤者がいること
- メンバーの平均年齢が35歳以上であること
- 全員がアマチュアであること

## 大会概要



あや乃 with ミルキーセピア (オーディエンス賞)



LOSCUS (審査員特別賞)



表彰式

世田谷パブリックシアター × パソナグループ

## 『CHIMERICA チャイメリカ』

作：ルーシー・カークウッド 翻訳：小田島則子 演出：栗山民也

出演：田中圭 満島真之介 倉科カナ 真島秀和

瀬戸さおり 池岡亮介 石橋徹郎 占部房子

八十川真由野 富山えり子 安藤 瞳 阿岐之将一 田邊和歌子

金子由之 増子倭文江 大鷹明良

評・谷岡健彦 [東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授]

両手に買物袋を提げて戦車の前に敢然と立ちあがる男性——1989年の天安門事件を象徴するイメージだ。84年生まれのイギリス人劇作家ルーシー・カークウッドは、この「戦車男」の写真から、全38場におよぶ骨太の物語を紡ぎ出した。

主人公のジョー(田中圭)は、男が天安門広場で戦車と対峙する瞬間を捉えたアメリカ人カメラマンだ。事件から20年以上たった後、ジョーは中国を再訪する。現地の友人ジャン・リン(満島真之介)から、戦車男はいまアメリカで暮しているはずだと聞きつけたジョーが、彼を探し始めるところから劇は動き出す。

カークウッドの語り口は、主題のスケールに不相応なくらい慎ましい。大上段に振りかぶって生硬な議論を展開するのではなく、ジョーのアパートや花屋の店先での会話が、生活感に裏打ちされた言葉で綴られる。こうした日常の小景を、演出の栗山民也は、二層に分かれた舞台装置(二村周作)を巧みに用いて途切れなくつな

ぎ、物語を小気味よく進ませてゆく。

面白いのは、ジョーの同僚も恋人も、戦車男の写真をいまあらためて見せられると、買物袋の中身にばかり興味を示すことだ。かつては勇敢な「英雄」を撮った写真だったのだが、もはや彼はただの「消費者」にすぎず、その購買傾向だけが関心の対象になってしまったのである。

そもそも米中関係自体が現在、政治体制の相違よりも、経済面の相互依存や貿易摩擦の方に目が向きがちだ。複数の動物が結合した怪物キマイラ(Chimera)をもじったタイトルは、このように市場でつながった両国の姿を指しているのだろう。

こうした経済活動優先の風潮のもとでは、アメリカ国民に政治的自由の価値を再認識させようとして戦車男の行方を探すジョーの行動は、周囲に波風を立てずにはおかない。強引に情報を要求して上院議員の不興を買い、軽率なメールで中国のジャン・リンを窮地に追いやってしまう。ともすれば独善的な言動が鼻につかぬ

ないジョーだが、田中は彼を嫌味なく演じ、一方、満島の演じるジャン・リンは穏やかな物腰の裏側に確たる意志をのぞかせる。ジョーの上役と中国の官憲を演じる大鷹明良が、威圧感のある佇まいで舞台を引き締めていた。

終盤、劇は大きく展開する。ジョーは、思いもよらぬ人物が戦車男だったと知り、自らの不明を恥じざるをえない。戦車男の写真を自分が撮っておきながら、劇中の台詞を借りれば、彼には「みんなに見えているものが見えて」おらず、手前勝手な「英雄」像に固執していたのである。

例の写真が舞台奥の壁面に大きく投影され、そこへ戦車男役の生身の俳優が溶け込んでゆく幕切れは忘れがたい。すでに公演は終了しているが、彼の正体も買物袋の中身もここに記すのは控えよう。この優れた戯曲が、近いうちにまたどこかの劇場の舞台にかかることを一観客として心から希望するからだ。

[撮影：細野晋司]



左：満島真之介 右：田中圭



手前：田中圭 奥：大鷹明良

## 『熱帯樹』

作：三島由紀夫

演出：小川絵梨子

出演：林 遣都 岡本 玲 栗田桃子 鶴見辰吾 中嶋朋子

評・川崎千恵子 [『すばる』副編集長]

[撮影：細野晋司]



左：鶴見辰吾 右：中嶋朋子



左から：林遣都、岡本玲、栗田桃子

——華麗にして装飾的である三島由紀夫の文体は、その戯曲において最も顕著となる。(中略)三島由紀夫は、美しいものを歴然と美しく語る。と同時に、人があまり「美しい」と思わないものを美しく語って、「ここにもちゃんと美は存在する」ということを明らかにする。『三島由紀夫とはなにものだったのか』橋本治、新潮文庫) ——

『熱帯樹』は1960年に三島由紀夫が文学座に書き下ろした作品だ。父・恵三郎(鶴見辰吾)、母・律子(中嶋朋子)、息子・勇(林遣都)、娘・郁子(岡本玲)、父の従妹である信子(栗田桃子)、たった5人の秋の一日、午後から深夜に至るほんの短い時間の物語である。

この作品の「美しいもの」とは何か。それは禁断の愛である。裕福な一家に生まれながら金銭的にも精神的にも充分なものを与えられず、父の抑圧、母の愛憎によって追い詰められた兄妹が、愛を貫き道行に至る悲劇性はとても美しい。林の純粹さゆえの脆さ、岡本の凜とした強さが、燃え尽きる前の最も強い炎を鮮やかに表

現していた。

では「美しいもの」とは何か。登場人物たちがまとう「家族」という仮面を剥いでしまえば、そこにいるのは莫大な資産で妻や子を支配することにしか興味のない男、その夫の束縛からはなれて思いのままに生きることを夢見て夫殺しを息子に託す女、母と妹に過剰で歪な愛情を持つことで自らを保つ青年、病で短い命であることを盾に兄に憎い母を殺めさせようとする少女、そして若くして夫を亡くして以来、誰かを看とることを生甲斐としている女と、己の欲望の成就のために生きる醜い人間たちである。

60年前に書かれた美文調の台詞を、現代の私たちにとってかけ離れた遠いものではなく、俳優の身体から湧き上がるように聞かせたのは、翻訳劇を多数手がけ、言葉と適切な距離を測ることのできる演出・小川絵梨子の手腕にほかならない。装飾過剰な台詞に実体が伴い、どの台詞も非常に安定感が備わっていた。目の前の相手に投げつけたい心の声を持って回った

表現によって巧みに隠しながら、実は、率直に言いたいことを語るための策略として機能させ、三島戯曲の魅力を引き出していた。鶴見の「際限もない財産の番」に飽いた虚しさ、中嶋の悪女になりきれないあどけなさに、説得力があった。

贅を尽くした作りであるはずの邸宅は、可動式の舞台装置によってその広さは再現されているもののシンプルで華美さは見られない。上部を稜線のように縁取る光によって、家の中がいかに冷たい闇に満ちているのかが際立っていた。

劇中、信子が口ずさむ歌がある。「人は死に絶え、笑いはのこる」。作品を象徴するような極めてシュールでグロテスクなこの歌詞に、音楽の阿部海太郎が不思議な軽さを与え、いつまでも耳の奥で鳴り続けるメロディになっていた。栗田演じる信子の湛える諦念も魅力があり印象に残った。

欲望はときに生の原動力となる。未来に希望を持つことは生きる者にだけ許される行為である。死の気配が濃く漂う物語は同じ熱量の生きる物語でもあった。

\* THEATRE

**MANSAI◎解体新書 その貳拾九**

【発酵】～ジャパンカルチャーという文化変容(アカルチュレーション)～

5月15日【水】19時 世田谷パブリックシアター

現代芸術の世界を構成しているさまざまな分野、要素をパーツに分け解体しながら、それぞれの成り立ちと根拠をあらためて問い直す、人気の芸術監督企画シリーズ。

企画 野村萬斎  
 出 野村萬斎  
 TAKAHIRO (ダンサー)  
 山田文彦 (雅楽師)



TAKAHIRO 山田文彦

一般 4,000円  
 友 3,800円  
 友 3,500円  
 U24 高校生以下 一般料金の半額

※未就学児入場不可

**世田谷パブリックシアター+KERA・MAP#009**  
**『キネマと恋人』**

6月8日【土】～23日【日】 世田谷パブリックシアター



【撮影：西村裕介】

映画愛に満ちた奇想天外なロマンスティック・コメディの大傑作！オリジナル・キャスト、スタッフが再結集、3年ぶり、待望の再演！

台本演出 ケラリーノ・サンドロヴィッチ  
 出 妻夫木聡 緒川たまき  
 ともさかりえ  
 三上市朗 佐藤 誓 橋本 淳  
 尾方宣久 廣川三憲  
 村岡希美  
 崎山梨奈 王下貴司  
 仁科 幸 北川 結 片山敦郎

一般 S席(1・2階席)7,800円 A席(3階席)4,800円  
 友 S席7,600円 友 S席7,500円  
 U24 高校生以下 各一般料金の半額  
 一般発売 4月13日【土】10:00～ ※発売初日は窓口販売なし ※未就学児入場不可

6月	8土	9日	10月	11火	12水	13木	14金	15土	16日	17月	18火	19水	20木	21金	22土	23日
13:00		●					●	●	●			◆		●	■	●
17:00	●															
18:00																●
18:30				●	●	●					●	◆	●			

■=視覚障害者のための舞台説明会あり。◆=収録のため客席内にカメラが入ります。

**MANSAI◎解体新書 その参拾 特別版『5W1H』**

7月9日【火】～14日【日】 世田谷パブリックシアター

これまでの「MANSAI◎解体新書」の“知の成果”をカタチにする、30回目を記念しての新しいパフォーマンス企画を創作。また毎回異なるトークゲストを招き、舞台芸術をより深く語り合います。



真鍋大度 石渡素

企画・構成・演出・出演 野村萬斎  
 ビジュアルデザイン・テクニカルディレクション  
 真鍋大度+石橋素+  
 ラインマティクスリサーチ

一般 S席(1・2階席)6,500円  
 A席(3階席)4,500円  
 友 S席6,300円  
 友 S席6,000円  
 U24 高校生以下 各一般料金の半額

一般発売 5月18日【土】10:00～

\*発売初日は窓口販売なし

\*日替わりのトークゲストはホームページでお知らせします。 ※未就学児入場不可

7月	9火	10水	11木	12金	13土	14日
13:00				●	●	●
14:00			●	●	●	
19:00	●	●	●		●	

**『チック』**

7月13日【土】～28日【日】 プレビュー公演：13日【土】・14日【日】  
 シアータートラム



2017年に日本初演を果たし、数々の賞を受賞したドイツ発少年2人の瑞々しい夏の冒険物語、待望の再演！

原作 ヴォルフガング・ヘルンドルフ  
 上演台本 ロベルト・コアル  
 翻訳・演出 小山ゆうな  
 出 柄本時生 篠山輝信  
 土井ケイト  
 那須佐代子 大鷹明良



一般 6,500円 友 6,300円 友 6,000円 ほか  
 プレビュー公演 一般 5,500円 友 5,300円 友 5,000円 ほか  
 U24 高校生以下 各一般料金の半額

一般発売 5月19日【日】10:00～

※未就学児入場不可

7月	13土	14日	17水	18木	19金	20土	21日	22月	23火	24水	25木	26金	27土	28日
13:00		●				●	●						●	●
14:00		●												
18:30		●											●	
19:00						●			●			●		

チケットの購入方法

世田谷パブリックシアターチケットセンター 世田谷パブリックシアター/シアータートラムと音楽事業部の公演チケットを取り扱っています

電話予約  
**03-5432-1515**  
 (10時～19時 年末年始は除く)

窓口  
**キャロットタワー5階**  
 (10時～19時 年末年始は除く)

オンライン  
 (要事前登録・登録料無料)  
 (年中無休・24時間対応)  
 PC・スマホ → <https://setagaya-pt.jp/>  
 携帯 → <https://setagaya-pt.jp/m/>

チケット料金はすべて税込

せたがやアーツカード会員(前売のみ)

友 世田谷パブリックシアター友の会会員(前売のみ)

U24 18歳から24歳対象(要事前登録・前売のみ)

高校生以下 購入時もしくは当日要年齢確認

車椅子スペース(定員有り、前日19時までまでにチケットセンターで要予約)

託児サービス(定員有り、2,000円、3日前の正午までに要予約) 03-5432-1526  
 生後6ヶ月以上9歳未満。障害のあるお子様についてはご相談ください

\* MUSIC

岡田知之パーカッションアンサンブル  
～知られざる打楽器のルーツとリズム～

4月21日[日]15時30分 成城ホール

日本を代表する打楽器奏者 岡田知之が率いる、打楽器アンサンブル。日本太鼓や鼓から、アフリカ、ヨーロッパまで、世界の様々な打楽器にルーツを求めた曲を披露します。



音楽監督 岡田知之

出 岡田知之パーカッションアンサンブル

曲 鼓 テーブル・ミュージック 三宅 ほか

一般 2,000円 中学生以下1,200円(当日要証明書提示)

友 1,800円

※未就学児入場不可

子ども向け企画!  
岡田知之パーカッションアンサンブル  
～子どもからおとなまで、楽しい打楽器の世界～

同日開催!

4月21日[日]11時～12時(休憩なし) 成城ホール

子どものための特別プログラム! 大人も一緒に楽しめる打楽器の1時間です。

曲 ディズニー・メドレー 剣の舞 熊蜂の飛行 ジブリ・メドレー ほか

一般 1,000円 3歳～中学生500円(当日要証明書提示)

※2歳以下入場不可

※託児サービス有くイベント託児・マザーズ>4/14[日]17時まで要予約  
(TEL 0120-788-222 / 平日10時～12時、13時～17時)  
0～1歳児2,000円、2歳児以上1,000円

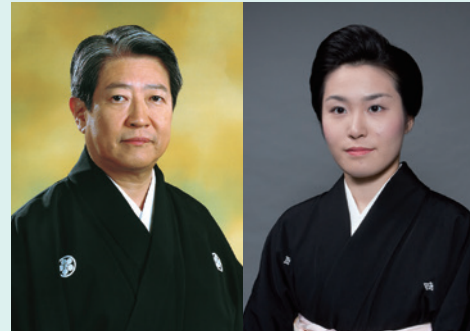


シリーズ和・華・調 第2回  
地歌・箏曲・京舞 富山清琴の世界



6月1日[土]15時 成城ホール

関西で伝承されてきた三味線の弾き歌い音楽、地歌。京都のお座敷に代表されるしっとり、ほんやりとした調べを、伝統を守り伝える富山清琴(人間国宝)の情感あふれる音色でお送りします。



富山清琴

井上安寿子

出 富山清琴(歌・三絃・箏) 富山清仁(歌・三絃・箏)

井上安寿子(舞) 小島美子(お話)

曲 八千代獅子 寛濶一休 三吉 春鶯囀 八島

一般 3,500円 友 3,000円

※未就学児入場不可

成城ホール最寄駅 小田急線 成城学園前

せたがやアートカード

“世田谷区民限定”区民のみなさまのアート体験を応援する《せたがやアートカード》▶



15歳以上の区民ならどなたでも登録できます。せたがや文化財団の各施設で割引料金などお得な特典をご用意。入会金・年会費は無料です。

- 特典
- 世田谷パブリックシアター／音楽事業部  
▶ チケット先行発売・会員割引(一部を除く・前売のみ)
  - 世田谷美術館・分館／世田谷文学館 ▶ 観覧料割引(一部を除く)
  - 生活工房 ▶ 講座受講料割引(一部を除く)
  - メールマガジン毎月配信 (ご希望の方のみ)

世田谷美術館／向井潤吉アトリエ館／清川泰次記念ギャラリー／宮本三郎記念美術館／世田谷文学館の窓口でも受付。ファックスや郵送でも受け付けています。お申込みの際は、ご本人の住所が確認できる書類(運転免許証、各種健康保険証、住民票の写し)をご用意ください。

詳しくは、<https://www.setagaya-bunka.jp/artscard/>

お問合せ・申込み受付: せたがやアートカード事務局 キャロットタワー5階 ☎ 03-5432-1548 (10時～19時) 年末年始を除く

今すぐお申し込みを!

友の会ご案内

《友の会》会員募集中

メンバーには盛りだくさんの特典!

■ 世田谷パブリックシアター友の会  
SePT倶楽部

特典

- ・チケット先行予約・チケット割引
- ・会報誌《SePT倶楽部》を毎月送付
- ・劇場内ロビーカフェ無料ドリンク券プレゼント
- ・企画イベントへのご招待&ご優待

お問合せ

世田谷パブリックシアター友の会事務局  
☎ 03-5432-1524  
🏠 <https://setagaya-pt.jp/tickets/howtobuy/club.html>

■ 世田谷美術館友の会  
FRIENDS OF SETAGAYA ART MUSEUM

特典

- ・世田谷美術館・分館の観覧料が、有効期間内何度でも無料
- ・実技講座・鑑賞会・美術館巡りなどへの参加
- ・会報《世田谷美術館友の会だより》を年3回送付
- ・提携美術館の入館割引
- ・館内ミュージアムショップの割引

お問合せ 世田谷美術館友の会事務局

☎ 03-3416-0607  
🏠 <https://setabi-tomonokai.jp/>

■ 世田谷文学館友の会  
Setagaya Literary Museum Friendship Club

特典

- ・友の会独自の講座・文学散歩への参加
- ・友の会会報、おしらせ、文学館ニュース、展覧会の案内を送付

お問合せ 世田谷文学館友の会事務局

☎ 03-5374-9111  
🏠 <http://setabuntomo.net/>

【各館友の会共通の特典/レストラン・カフェの割引】  
世田谷美術館・分館、世田谷文学館観覧料優待/オークラレストランスカイキャロット(キャロットタワー26F)/レストラン・ジャルダン、SeTaBi Café(世田谷美術館内)

# Take a Break

レストラン・ジャルダン  
セタビカフェ

LE JARDIN

砧公園の一角にある世田谷美術館に、レストランとカフェが併設されているのをご存じですか？

レストラン ル・ジャルダンは、美術館のロビーから続く回廊を抜けた先にある一軒家のようなレストラン。開放的な店内からは四季折々の自然を堪能できます。ランチタイムからティータイム、ディナータイム(予約制)と一日を通して営業、フランス料理とワインが楽しめます。中でも展覧会コラボメニューのメイン料理は、総料理長が展示作品から浮かんでくるイメージをお皿の上に表現した、まさに絵画のように美しい一皿です。



▲公園の自然を活かしたガーデン・ウェディングの会場として年間70組が挙式、パーティを行っています。四季折々の美しさを背景に、二人の人生の門出を彩る思い出深い一日に。参列者へは美術館の展覧会チケットのプレゼントも。



田沼武能写真展 コラボメニュー (2019年2月)



ブルーノムナリー展 コラボメニュー (2018年11月)

▲「戦後の東京下町、子ども達の写真、変わり行く東京……今回の企画展の作品を拝見し、感じた印象や感情で当時をイメージしたお料理を現代風に表現してみました。戦後のことなので、アメリカ的なものと、下町的なものを取り入れています」(総料理長)

こちらは美術館地下一階にあるセルフサービスのオープンカフェ。看板メニューは数量限定のそば粉のガレット、本場ブルターニュのシードルなど。キッチンで焼くタルトや手作りサンドイッチも好評。噴水のあるパティオ(中庭)のテーブル席は、砧公園を訪れる愛犬家たちにも人気です。



**営業日** レストラン・カフェともに美術館の開館日に準じる。詳しくは世田谷美術館のホームページをご覧ください。





## 第6回 世田谷区芸術アワード“飛翔”募集

主催：世田谷区・公益財団法人せたがや文化財団

### ● 世田谷区芸術アワード“飛翔”とは――

文化・芸術分野で活躍する優れた若手芸術家の発掘・支援を目的に2008年に創設された芸術賞です。

自身の創作活動について応募する「自薦方式」で、受賞者には賞金を交付、受賞記念発表の場の提供と広報などの支援を行います。

### ● 5部門とは――

**生活デザイン** **舞台芸術** **音楽** **美術** **文学** です。

### ● 応募資格

15歳以上35歳以下(グループの場合は代表者)

※舞台芸術のみ15歳以上40歳以下

将来にわたって文化・芸術活動を継続的に展開していく意思・意欲のある個人またはグループ。

生活デザイン、音楽、文学部門は全国を対象とします。舞台芸術部門は東京近郊で活動していること。美術部門は世田谷区に在住・在学・在勤または主な活動場所を区内に設けて文化・芸術の創造・創作活動を継続的にやっていること。

※その他、詳細な応募条件については、後日、配布する募集要項にてご確認ください。

### ● 受賞人数

6名(または6グループ)以内

※上記、受賞人数のうち、美術部門は2名又は2グループを予定

### ● 審査委員(順不同)

第一次審査及び、外部審査員(有識者)による選考の後、次の委員で構成する「世田谷区芸術アワード審査会」が選考を行います。

(公財)せたがや文化財団理事長 永井多恵子

世田谷パブリックシアター芸術監督 野村萬斎

音楽事業部 音楽監督 池辺晋一郎

世田谷美術館館長 酒井忠康

世田谷文学館館長 菅野昭正

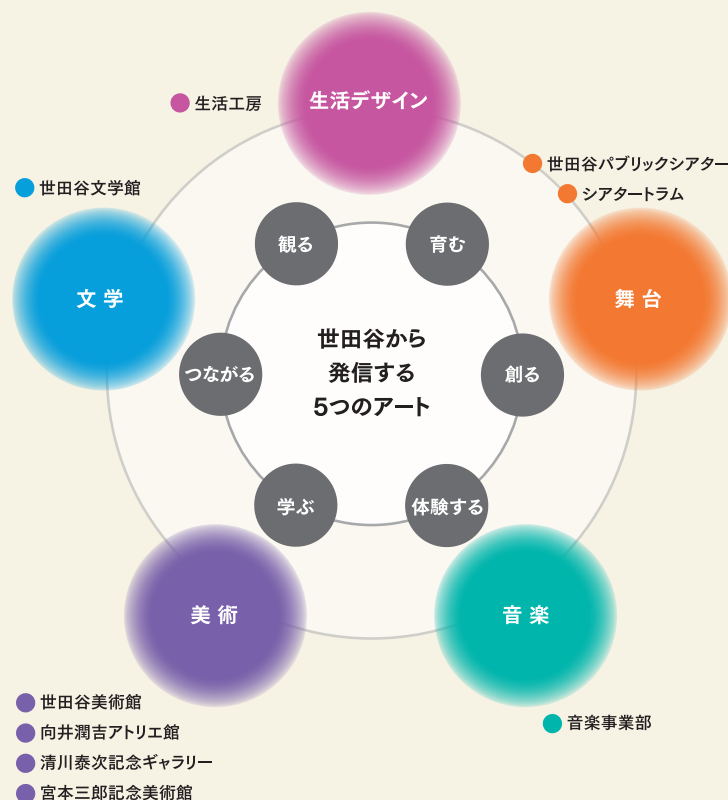
世田谷区副区長 岡田篤

### ● 第6回募集

募集要項の配布は、2019年5月を予定。応募締切は9月。

詳細は世田谷区のホームページ、(公財)せたがや文化財団ホームページ「せたがやアーツナビ」また各事業部のホームページでお知らせします。

## せたがやのアートをみなさまの手で支えていただくために



### ご支援のお願い

せたがや文化財団は、5つのジャンルを軸に枠組みを超えた文化・芸術活動を行っています。

文化・芸術を巡る経済環境は年々厳しさを増していますが、日々の生活に豊かさや潤いをもたらしてくれる、文化・芸術の役割はより一層重要とされています。

せたがや文化財団では、多くの市民、芸術家、文化人そして企業の皆様と共同しながら文化・芸術の振興を図り、社会に貢献する活動を展開することを目指します。

当財団の活動趣旨にご賛同をいただき、広く文化・芸術を愛好する皆様、また社会貢献にご理解のある企業の皆様からのご支援・ご協力をお願いいたします。

- 銀行振込、現金書留のほか、オンラインでのカード決済も可能です
- 確定申告により、税制上の優遇措置を受けることができます
- 寄付金の使途をご指定いただけます

詳しくは、 [せたがやアーツナビ](#)

→  →

お申込み・お問合せ

公益財団法人せたがや文化財団 事務局

☎ 03-5432-1501(平日9:30~18:15)

☎ 03-5432-1559

✉ jimukyoku@setagaya-ac.net

### 世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 世田谷区成城2-22-17  
☎ 03-3416-1202 🌐 <http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>



アクセス 小田急線「成城学園前」駅下車 南口から徒歩3分

### 世田谷文学館

〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10  
☎ 03-5374-9111 (代) 🌐 <https://www.setabun.or.jp/>



アクセス 京王線「芦花公園」駅下車 南口から徒歩5分  
小田急線「千歳船橋」駅から京王バス(蔵23)  
千歳烏山行「芦花恒春園」下車徒歩5分

### 世田谷文化生活情報センター

〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー  
☎ 03-5432-1500 (代)



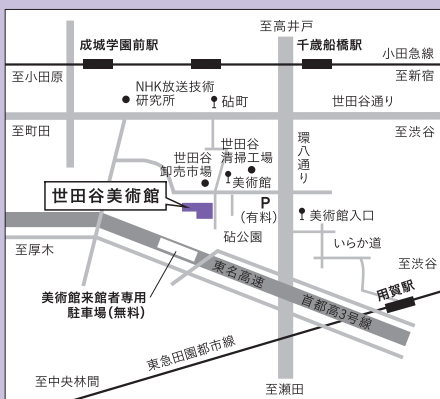
生活工房 ☎ 03-5432-1543 🌐 <http://www.setagaya-ldc.net/>  
世田谷パブリックシアター／シアタートラム  
☎ 03-5432-1526 🌐 <https://setagaya-pt.jp/>  
音楽事業部 ☎ 03-5432-1535  
🌐 <https://www.setagayamusic-pd.com/>

アクセス 東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車徒歩2分(地下道直結)  
東急世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩0分  
小田急バス・東急バス「三軒茶屋」駅下車徒歩1分



### 世田谷美術館

〒157-0075 世田谷区砧公園1-2  
☎ 03-3415-6011 (代) 🌐 <https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>



アクセス 東急田園都市線「用賀」駅下車徒歩17分または美術館行バスで「美術館」下車徒歩3分  
小田急線「成城学園前」駅から渋谷駅行バス「砧町」下車徒歩10分  
小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バス「美術館入口」下車徒歩5分

### 世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1  
☎ 03-5450-9581 🌐 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>



アクセス 東急田園都市線「駒沢大学」駅下車 西口から徒歩10分  
東急世田谷線「松陰神社前」駅下車徒歩17分

### 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館

〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13  
☎ 03-5483-3836 🌐 <http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>



アクセス 東急大井町線・東横線「自由が丘」駅下車徒歩7分  
東急目黒線「奥沢」駅下車徒歩8分  
東急大井町線「九品仏」駅下車徒歩8分

### 公益財団法人 せたがや文化財団

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1  
キャロットタワー5F  
☎ 03-5432-1501 ☎ 03-5432-1559  
🌐 <https://www.setagaya-bunka.jp/>